



ひだのたくみ  
飛驒匠のDNAを受け継ぐものづくりのまち  
**メイド・バイ飛驒高山認証**



市では、飛驒高山ブランドコンセプトに合致する独自性と信頼性の高い地場産品を「メイド・バイ飛驒高山認証産品」に認証しています。ものづくりの匠たちの熱い想いに触れてください。

**飛驒高山ブランドコンセプト**

「飛驒高山の風土と飛驒人の暮らしが生み出す本物 それが飛驒高山ブランド」

**No.7 宮笠**  
宮笠保存会

一之宮町に三百年以上前から伝わる伝統工芸品「宮笠」。冬場の農閑期の副業として始まり、戦後の最盛期には百軒ほどが手掛けていましたが、現在では材料の調達から販売までの一連の工程ができるのは同町の問坂義一さんのみとなりました。宮笠は、ヒノキやイチイの木を薄く剥いで短冊状にした「ひで」を編み込んで作ります。赤いイチイと白いヒノキが織り成す模様が特徴で、笠の上にセミのデザインが施された「蟬笠」やヒノキとイチイを編み込んだ「紅白」など、今なお現役の生活道具でありながら、その美しさからインテリアとしても愛用されています。

1 講習会に参加して、宮笠の魅力に惹きつけられました。2、3年経って、ようやく出品できるまでになりました。

と語るのには宮笠保存会で会長を務める佐藤功さん。同町では、平成22年に宮笠愛好会が立ち上がり、平成28年には宮笠保存会として、問坂さんに指導を仰ぎながら製作技術を継承するとともに、二十四日市や飛驒高山ウルトラマラソンなどで普及活動を行っています。

1 保存会のみなさんが一生懸命取り組んでくれるおかげで成り立っている。この先も伝統を繋いでいってほしい。

そう語る問坂さんを囲み、宮笠の歩んできた道のりを聞きながら、黙々と作業する保存会の皆さん。

1 長く続いてきた伝統を絶やすわけにはいかない。と語る保存会の佐藤さん。

1 存続させるため、生涯をかけて伝えていきたい。と語る問坂さん。

保存会が製作する宮笠には、両者の「想い」と「伝統」が編み込まれていました。



宮笠を手掛ける問坂義一さん

**広報**  
**市長だより**  
96

**新成人の力走**

高山市長 **國島芳明**

1月2日、3日に開催された第96回東京箱根間往復大学駅伝競走では、清見町出身で國學院大学の殿地琢朗さん(20)が胸を打つ走りを見せてくれました。

殿地さんは最終第10区でたすきを受け取ると、区間4位となる力走で集団に追いつき、残り1キロで抜け出し見事総合3位でゴールテープを切りました。この様子をテレビの前で手に汗握り応援していた方も多かったのではないのでしょうか。日本国中が注目する大会で躍動する若き高山市民を応援することができたことを誇らしく思うとともに、すがすがしい気持ちで新年をスタートすることができました。

「地域の方に喜んでもらえることがやりがい。今後も希望・元気を与えられるよう頑張りたい」と語る殿地さん。改めて、地域への誇りと愛着を持った市民一人ひとりによって支えられているまちであることに感謝するとともに、一層市民の皆様が高山に住むことに幸せを感じることができるようまちづくりを目指し、市政運営にあたってまいります。



ケーブルテレビの番組「ハイ、市役所です」はインターネットでもご覧いただけます。  
市ホームページ「行政情報」の動画コーナー

**市長室へ**  
**ようこそ**

**●市民と市長の面談日**



**2月26日(水)**

午前9時～11時45分

※事前にご予約ください

市長室直通FAXもご利用ください  
FAX●36-2060

問合せ先 秘書課 ☎35-3130

編集・発行/高山市総務部広報情報課  
〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地  
TEL/0577-32-3333(代)  
FAX/0577-32-7000 (市長室直通)  
FAX/0577-35-3174 (広報情報課直通)

E-mail/kouhou@city.takayama.lg.jp  
HP/https://www.city.takayama.lg.jp/  
携帯用HP/http://mobile.city.takayama.lg.jp/  
防災行政無線の内容は電話でも確認できます  
☎0180-995-690